



市の防災対策

芦屋市では、住民の安全を確保するため、様々な避難施設を指定しています。また、災害発生時における迅速な避難の確保や地域の方々による避難所の開設などに備えるため、各種設備の整備に取り組んでいます。

芦屋市の避難施設の種類

	避難所	災害が発生したときに、住居が被害を受け居住の場を失った人や避難指示などが発令された場合に、避難の必要がある人を収容する施設です。
	津波一時避難施設	津波等からの避難で、標高の高い地域への移動が難しい場合に、命を守るために一時的に避難するための施設です。
	福祉避難所	高齢者や障がいのある人など、一般の避難所生活において配慮を必要とする要配慮者が一時的に生活をする避難所です。また、一般の避難所とは異なり、必要に応じて開設する二次的な避難所です。
	広域避難場所	災害後発生する市街地火災などから避難者を保護するために必要な面積を有する公園、緑地などです。

避難施設は防災情報マップで最新の情報を確認しましょう!

防災情報マップをパソコンやスマートフォンで見よう

https://www.city.ashiya.lg.jp/hazardmap/flow_01.html



芦屋市Web版防災情報マップ



防災BOX (地震自動解錠ボックス) の設置

地震災害時における津波からの迅速な避難の確保や、地域の方々による避難所開設に備えるため、小中学校に防災BOX(地震自動解錠ボックス)を設置しています。防災BOXの中には門扉から体育館などの避難場所に至るまでの鍵や地図を保管しています。

震度5弱感知

防災BOX扉自動解錠

鍵・地図取り出し

門扉等を解錠し避難場所へ

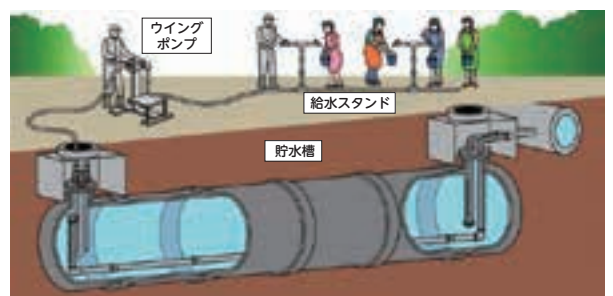


飲料水兼用耐震性貯水槽

災害時に水を約100m³確保することができる大きな水道管です。1基で約1万人の3日以上の飲料水(1人1日3リットル)を供給することが可能です。現在、市内に100m³が9基と60m³が1基の計10基が設置されており、**市民全員のおよそ3日分**の飲料水が確保されています。

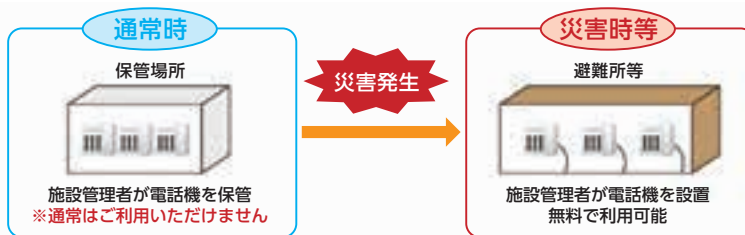
※令和4年3月末に山手中学校の耐震性貯水槽が完成し、60m³が2基になります。

地域での訓練時などにマンホールの開閉や給水方法などを確認しましょう。



特設公衆電話

大規模災害時でも利用できる公衆電話です。
 一般の固定電話や携帯電話より優先される設計で、家族の安否確認や支援を求める緊急連絡など被災者の重要な通信手段の確保ができます。
 市内の避難所への整備を進めており、令和4年1月時点で、26施設に44回線設置しています。



(図:NTT西日本ホームページより)

時間経過に応じた災害時のトイレ活用イメージ

停電や断水の場合は、**携帯トイレ**や**簡易トイレ**を活用します。



マンホールトイレなどの組み立て式の仮設トイレも使用できるようになります。



(国土交通省ホームページより)

国・自衛隊や協定先等の支援により、**仮設トイレ**も使用できます。

発災
1日目
3日目
7日目

(国土交通省「マンホールトイレ整備・運用のためのガイドライン(2021年版)」を基に作成)

災害時協力井戸への登録を募集しています!

芦屋市では、大規模な災害発生時に水道施設が損傷し、水の供給が困難となったときに備え、水道施設が復旧するまでの間、住民や事業者の方が所有されている井戸の水を生活用水(清掃用・トイレ用・洗濯用などの水)として利用させていただくために、「災害時協力井戸」への登録を募集しています。

令和4年1月時点で8件の登録があります。災害時にご近所で助け合えるように井戸を所有されている方は、ぜひともご登録をお願いします。

災害時協力井戸については、防災安全課にお問い合わせください。 **0797-38-2093**



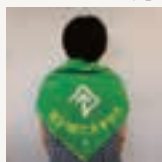
コミュニケーション支援ツール

芦屋市では、言葉によるコミュニケーションが困難である様々な方(障がいのある人や日本語が分からない外国人等)への支援ツールを避難所となる小学校などに備えています。

災害時バンダナ

災害時バンダナは、支援を必要とする方(聴覚に障がいのある人・外国人)と支援ができる方(手話通訳者・外国語を話せる人)がバンダナを着用することで、災害時の円滑な支援をサポートするものです。バンダナには意思表示を示すイラストを表示し、指差してコミュニケーションを取ることできます。

このバンダナは、聴覚に障がいのある人に配布しています。



災害時バンダナの
使用イメージ

コミュニケーション支援ボード(災害版)

分かりやすいイラストと文字をカードにし、指差すことでコミュニケーションを円滑に行います。





防災対策

資機材・備蓄品の整備

芦屋市では、市内に42か所の防災倉庫を設置しており、災害発生時、有効に資機材を使用できるよう、定期的に点検しています。また、小学校などの拠点避難所には備蓄品を配備しています。

防災倉庫・資機材・備蓄品

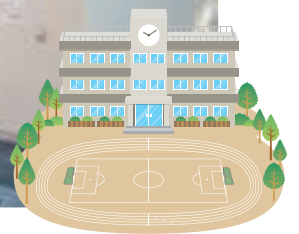
防災倉庫には「火災が発生したとき」、「救助が必要なとき」、「救護が必要なとき」などに使用する資機材を整備しています。地域の防災訓練に参加して、どんな資機材が入っているか、どう使えばいいのかを日ごろから確認しておきましょう。



公園などに設置の
防災倉庫



小学校などに設置の
防災倉庫



主な初期消火用資機材(例)



消火器



消火用ポンプ

主な救助用資機材(例)



担架



災害救助工具

主な救護用資機材(例)



リヤカー



組立てベッド

主な備蓄品(例)



飲料水



アルファ化米

こんな物も備えています



間仕切りテント

感染症対策や
プライバシー
確保のために



衛生用品

オムツ(大人用・
乳幼児)や
生理用品など



簡易トイレ

停電・断水時にも
すぐ使用可能

ポイント

備蓄品は阪神・淡路大震災の最大の避難者数を基準に備えています。その他必要に応じて、協定先や国などの支援先から調達を行います。不足や偏りが生じるおそれがあります。必要な人に必要な支援が行えるよう、日ごろから一人ひとりが備蓄をしておきましょう。



防災対策

防災総合訓練

芦屋市は、地域や防災関係機関と連携をとりながら、災害への備えを図るために、防災総合訓練を実施しています。土砂災害を想定した訓練や南海トラフ巨大地震の津波災害を想定した訓練、オンラインを活用した訓練等を行っています。

オンラインでの防災総合訓練

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、Zoomを利用したオンライン防災コンテンツにより、防災意識を高め、自助・共助の重要性を学んでいただけるようリモート型の防災訓練を実施しました。(令和4年1月芦屋市防災総合訓練)



避難所開設手順を確認

発災初動期において、防災士や自主防災会などの地域の皆さんで避難所開設ができるよう、開設手順の確認や段ボールベッド・簡易トイレ等の組立てなどの訓練を実施しました。(令和元年9月芦屋市防災総合訓練)



関係機関との実動訓練

事故車両や中高層ビルからの要救助者の救出救助訓練、救援物資の輸送訓練、協定先によるドローンの空撮など関係機関と連携の上、様々な訓練を実施しました。(平成30年11月芦屋市防災総合訓練)



訓練での防災親子イベント

使わなくなったおもちゃをかえっこしながら防災プログラムの体験もできる「イザ!カエルキャラバン!」を実施しました。(平成30年11月芦屋市防災総合訓練)



要配慮者の避難支援訓練

土砂災害に備えるため、早期避難、要配慮者への避難支援などに重点をおいた住民主体の訓練を実施しました。また、要配慮者の二次的な避難所となる福祉避難所の開設訓練も実施しました。(平成29年7月芦屋市防災総合訓練)



地震・津波

風水害

土砂災害

防災情報

備え

避難

地域防災

防災対策